

うらやましいカフェテリア

c 1240411 大沼叶采

私はカフェテリアを、平日の昼食時や複数人で取り組む課題の話し合いなどで利用していた。2限目の授業が終わると、続々と人が集まり、食券の販売機に列ができる。日によって差はあるが、半分以上の席が埋まる。2階の席に座る人もいれば、買ってきた菓子パンや弁当を食べている人もいる。

学外のひとにうらやましいと思われるカフェテリアとは、学生や教職員にとって魅力的なカフェテリアである。また、学外のひとが利用したいと感じさせ、実際に訪れるようなカフェテリアである。

学生や教職員にとって魅力的なのは割引価格での提供である。リーズナブルであるほど学生はよろこんで利用するだろうし、学外の人にはうらやましいと感じるだろう。今の値段から一律100円安くなれば、とても魅力的だろう。また、割引クーポンの配布などがある。図書館の複数回利用でたまるスタンプカードでの割引やカフェエリアの隣のコンビニの利用での割引、大学内でのイベントの集客として割引クーポンの配布などいいだろう。

うらやましいと感じさせたい学外の人とは誰か。対象は他大学の学生や本大学に進学を希望している高校生などだ。彼らの顕在的、潜在的ニーズについて考察する。彼らに本大学のカフェテリアを紹介できる一番の機会はオープンキャンパスである。また、私はオープンキャンパスに行ったことがあるので、彼らの視点から考えることができる。彼らにはオープンキャンパスで本大学の資料やパンフレットが配布される。あるいは、資料請求をし、事前に目を通しているかもしれない。それには、カフェテリアの写真と説明が記載されている。とても写りのよいおしゃれなカフェテリアが人でにぎわっている写真である。私はドミトリ一寮が写真と違い、至るところがぼろぼろであることを学生引率の大学案内で知ったときと同じくらいの驚きと落胆があった。オープンキャンパスに来た学生には昼食が無料になるサービスがあるが、私のときは校内引率でカフェテリアの紹介は無かった。学生が引率する学内案内にカフェテリアを含めたほうがいいだろう。そこで、利用の仕方や学生の視点からのカフェテリアの説明があるとよい。

以上からオープンキャンパスをもっともりあげたほうがいいと感じた。